

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2015年7月6日～2015年7月12日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成27年7月24日

在ジョージア大使館

1. アブハジア・南オセチア

【南オセチア】

▼「国境」標識の設置(10日)

・10日、トビリシ・ゴリ中央高速道路付近のゴリ地区ツィテルパニ村およびアハルゴリ地区オルチョサニ村の付近に「南オセチア共和国国境」と書かれた標識が設置された。バクー＝スプサ・パイプラインの一部がこれらの地域の近くを通過している。

・12日、カラゼ・エネルギー大臣は、TVで「もしパイプラインに何らかの問題が発生した場合には、我々は直ちに代替的な計画を実施する用意がある」と述べた。

・ジョージア外務省は「ロシアによる挑発」を批判する声明を発表。EU、国連、ウクライナ外務省、ラトビア外務省なども声明を発表。17日、日本大使館も声明を発表した。

2. 外 政

▼露がジョージアとの囚人引き渡しに関する合意を停止(6日)

・プーチン露大統領が、ロシア国内で服役するジョージア国民の引き渡しを停止する大統領令に署名。ジョージアとロシアは1996年3月19日に相互の囚人引き渡しに関する合意を結んだ。

▼外相が「クロアチア・フォーラム」に出席(9日～11日)

・ベルチャシヴィリ外相がドゥブロブニクで開催された「クロアチア・フォーラム2015」に出席。「外交・安全保障・開発政策：相互関係と相互依存」と題した講演を行った。

・フォーラムに並行して、シェフチョヴィチ欧州委員会副委員長と国際的なエネルギープロジェクトへのジョージアの参加、地域のエネルギー安全保障などについて会談。菌浦外務大臣政務官、クロアチア外相らとも会談した。

▼ブルジャナゼ民主運動・統一ジョージア党党首がモスクワを訪問(10日)

・ブルジャナゼ民主運動・統一ジョージア党党首が「21世紀における焦眉の国際的な法的問題に関する円卓会議」に参加するため、露国家院の招待を受けてモスクワを訪問。カラーシン露外務次官、ナルシシキン露国家院議長と会談し、露メディアのインタビューに答えた。10日、露外務省は「ブ」党首と「カ」露外務次官との会談について、「露・ジョージア関係の改善・発展の見方に関

して意見を交換した」とのプレスリリースを発表。

・NTVのインタビューで、「ブ」党首は、「NATOの誰も我々を待っておらず、誰も我々を受け容れようとしていないことを我々は認めねばならない。他方で、ジョージア領土に露軍基地がある状況では、ジョージア領土へのNATO軍基地の設置やジョージアのNATO加盟は非現実的であり、ジョージアの国益にもそぐわない」と述べた。また、ジョージア領土にはいかなる外国の軍事基地も置かれるべきではないと述べた。

・サーカシヴィリ前大統領のウクライナ・オデッサ州行政府長官への任命について、「ウクライナ政府に憤慨している」と述べた。

・帰国後、「ブ」党首は、ジョージア政府は両国間の直接の対話に向け十分に努力していないとして、対話の環境をつくりだすために精一杯努力していると述べた。

▼ヴァジアニ基地での軍事訓練(8日)

・ヴァジアニ基地で米、ブルガリア、ラトビア、リトアニア、ルーマニアとの2週間の共同軍事訓練「Agile Spirit」が始まった。アルメニア軍、モルドバ軍の代表者も視察している。「Agile Spirit」は2011年以降毎年ジョージア・米のみで行なわれていたが、2015年に新たな2カ国共同訓練「Noble Partner」が開始されたことで、フォーマットが変更された。

・ジョージア国防省によれば、「Agile Spirit」はNATO・ジョージアの「実質的パッケージ」の枠内で実施される。

▼防空システムに関する契約(10日)

・パリにてヒダシェリ国防相が、ミサイルを製造するMBDA社との契約に署名。「ヒ」国防相は6月半ばにもThalesRaytheonSystems社と契約を結んだばかり。署名後、「ヒ」国防相はこれらの契約によってジョージアの防空は「保障され」、NATOのシステムと完全に調和したものになると述べた。

3. 内 政

▼統一国民運動が事務局長を選出(4日)

・統一国民運動は、5月に離党したジャパリゼ議員に代わり、ラティアニ議員を新しい事務局長に選出。

▼国会が内務省改革案を承認(8日)

・国会は内務省から治安・諜報部門を分離する法律改正案の最終読を承認。マルグヴェラシヴィリ大統領の署名を経て、8月1日に新たに「国家保安庁」が設置される。内務省からテロ対策センター、防諜局、汚職対策局、運用技術局、特務局が国家保安庁に移される。

・ガリバシヴィリ首相が「国家保安庁」長官の候補者を

指名し、2週間以内に国家保安庁長官の候補者の承認・不承認を決定する。国会の過半数の議員の支持で承認されると、国家保安庁長官は6年の任期で就任する。

4. 経 済

▼国会が修正予算案を審議(6日)

- ・歳出の140百万ラリ削減を含む政府がまとめた修正予算案をめぐる審議が国会で開始された。
- ・修正予算案について、7日、カダギゼ国立銀行総裁は、ラリアンへの更なる圧力を打ち消すために適切な修正がなされていないと批判。

▼外貨準備高(7日)

- ・国立銀行の資料によれば、6月末の時点の外貨準備高は

2,483百万ドル。5月末より約90百万ドル増加し、2015年1月以降最高となった。前年同期比14.39百万ドル減。

▼「金融監督庁」の設置案に関する国会議長の発言(10日)

- ・銀行セクターおよび国内金融機関に対する監督権限を国立銀行から新しい「銀行監督庁」に移す法案について、ウスパシヴィリ国会議長は、国際的な金融機関の理解が得られない限り国会は法案を採択しないと述べた。国会が同法案の第一読を承認した6月27日に、国際通貨基金、欧州復興開発銀行、アジア開発銀行、世界銀行が民間銀行の監督権限を国立銀行に残すよう呼びかける共同声明を発表した。大統領や野党、市民グループなども同法案に反対している。